

奈良国立文化財研究所要綱

I 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

(1) 1988年5月21日 第62回公開講演会

*長屋王邸宅跡を掘る

「平城京の調査」 町田 章

「長屋王邸宅跡の変遷」 小林 謙一

「長屋王邸と「長屋皇宮」木簡」 綾村 宏

(2) 1988年11月12日 第63回公開講演会

「平城宮朱雀門の復原」 内田 昭人

「平安貴族は瓦葺邸宅に住んでいなかった」

上原 真人

現地説明会

(1) 1988年5月14日 平城宮跡第186次発掘調査
(平城京左京三条二坊二坪) 玉田 芳英

(2) 1988年6月25日 平城宮跡第188次発掘調査
(平城宮第二次朝堂院朝庭) 本中 真

(3) 1988年10月29日 平城宮跡第193次発掘調査
(平城京左京三条二坊七・八坪) 花谷 浩
寺崎 保広

(4) 1988年11月5日 平城宮跡第190次発掘調査
(平城京左京三条二坊一・二坪) 井上 和人

(5) 1988年11月12日 平城宮跡第194次発掘調査
(平城宮西方官衙) 浅川 滋男

(6) 1988年11月19日 石神遺跡第8次発掘調査
山岸 常人

(7) 1988年11月26日 藤原宮跡第58次発掘調査
(藤原宮内裏東外郭) 橋本 義則

(8) 1988年11月26日 藤原宮跡第59次発掘調査
(藤原宮西方官衙) 深澤 芳樹

(9) 1989年2月4日 平城宮跡第197次発掘調査
(平城京左京三条二坊二坪) 佐川 正敏

(10) 1989年3月18日 平城宮跡第195次南・197次
西発掘調査
(平城京左京三条二坊一坪) 佐川 正敏

平城宮跡資料館・遺構展示館

見学者数

区 分	資料館	遺構展示館	計
1988年	122,062	110,634	232,696
累 計	957,960	1,264,907	2,222,867

資料館は1970年度、遺構展示館は1963年度以降の累計

2 1988年文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研究代表者	交付額
特別推進研究(2)	古年輪変動データの分析による考古歴史研究方法の確立	田 中 琢	8,000千円
一般研究(A)	日本出土青銅器の材質分析による編年研究	町 田 章	700
一般研究(B)	発掘遺構による日本中世住居の復原的研究	宮本長二郎	1,500
〃	古墳から出土する青銅遺物に見られるブロンズ病の成因と劣化防止に関する研究	肥塚 隆保	2,200
一般研究(C)	条坊・条里研究史に関する資料収集とその研究—北浦定政を中心として—	岩本 次郎	500
〃	日本古代度量衡の考古学的研究	黒 崎 直	500
〃	西日本出土の縄文～古墳時代木器の集成的研究	上原 真人	1,300
〃	「型」を用いた考古遺物に関する基礎的研究	大 脇 潔	900
〃	古代における武器の変遷—弓矢を中心に—	小林 謙一	700
奨励研究(A)	古墳時代における馬具製作技術の復原的研究	花 谷 浩	800
〃	中世寺院の建築絵図史料の研究	山岸 常人	800
〃	近代日本庭園におけるヨーロッパ風景式庭園の影響に関する研究	小野 健吉	900
試験研究(1)	地名データベースの作成と利用法の確立	木全 敬蔵	3,400
研究成果刊行費 (データベース)	埋蔵文化財文献情報データベース	岩本 次郎	6,790
計	14件		28,990

3 飛鳥資料館の運営

展 示

第一展示室 常設展示

第二展示室

春期特別展示 「飛鳥古墳を科学する」

(1988.4.2～1988.5.8)

秋期特別展示 「聖徳太子の世界」

(1988.10.5～1988.11.23)

特別講演会

1988年4月16日

「ハイテック考古学」 坂田 俊文

1988年4月23日

「科学で遺跡をさぐる」 西村 康

1988年10月29日

「聖徳太子の人間像」 高田 良信

「聖徳太子の建築」 宮本長二郎

1988年11月5日

「聖徳太子の種々相」 光森 正士

「聖徳太子の墓」 猪熊 兼勝

普 及

インフォメーションルームにおいて、観覧者の質問に応じている。

また、特別展示の図録として「古墳を科学する」及び「聖徳太子の世界」を刊行した。

入館者数(1988.4.2～1989.3.31 開館日数312日)

区 分	個人観覧	団体観覧	有 料	無 料	合 計
一 般	43,394	17,677			
高・大生	9,395	29,213	167,847	9,928	177,775
小・中生	11,339	56,829			
計	64,128	103,719			

陳列品購入

聖徳太子孝養像 1 体

飛鳥時代男子像 1 体

ランドサットフィルム 1 組 (2 枚)

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

(1) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修

(生物環境課程)

1988年4月14日～4月28日(参加者14名)

(2) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺構探査・予備調査課程)

1988年5月11日～6月7日(参加者11名)

(3) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(石器調査課程)

1988年6月15日～6月30日(参加者16名)

(4) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
(埋蔵文化財基礎課程)

1988年7月7日～7月13日(参加者32名)

(5) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修
(一般課程)

1988年7月21日～8月26日(参加者23名)

(6) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡測量課程)

1988年9月7日～10月4日(参加者16名)

(7) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡環境課程)

1988年10月12日～10月25日(参加者21名)

(8) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡保存整備課程)

1988年11月1日～11月22日(参加者14名)

(9) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(古墳時代遺跡調査課程)

1988年11月30日～12月21日(参加者25名)

(10) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
(低湿性遺跡調査課程)

1989年1月10日～1月13日(参加者42名)

(11) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(保存科学課程)

1989年1月20日～2月8日(参加者19名)

(12) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(建築遺構調査課程)

1989年2月15日～2月28日(参加者28名)

(13) 昭和63年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(埋蔵文化財情報課程)

1989年3月9日～3月23日(参加者19名)

発掘調査・整備・探査指導

(北海道)開陽丸, 手宮洞窟, (青森県)弘前城跡, 根城跡, (岩手県)毛越寺庭園, 志波城跡, 盛岡城跡, (宮城県)宮沢遺跡, 多賀城跡, 日の出山瓦窯群跡, (秋田県)秋田城跡, 弘田柵跡, (山形県)西

沼田遺跡, (福島県)慧日寺跡, 夏井廃寺塔跡, 大戸古窯跡群, (茨城県)結城廃寺跡, 神野向遺跡, (栃木県)足利学校跡, 下野国府跡, 下野国分寺跡, (群馬県)中筋遺跡, 宇通遺跡, 上野国分寺跡, (神奈川県)永福寺跡, (富山県)じょうべのみ遺跡, 桜町遺跡, 安田城跡, (石川県)東林院跡庭園, 能登国分寺跡, (福井県)向山古墳, 鳴鹿手島遺跡, (山梨県)天狗沢窯址, 春日居町国府遺跡, (長野県)高梨館跡, 森將軍塚古墳, 佐久市須恵器・製炭窯址, 松本城跡, 遊光遺跡, 石川条里遺跡, 松本市内遺跡, (岐阜県)塚原遺跡, 東氏館跡庭園, 加納城跡, (静岡県)勝間田城跡, 神明原・元宮川遺跡, 横須賀城跡, (愛知県)三河国分寺跡, 三河国分尼寺跡, (三重県)伊賀国府跡推定地, 繩生廃寺跡, 森山東遺跡, 太田遺跡, 牧瓦窯群跡, (滋賀県)唐橋遺跡, 大岩山古墳群, 南滋賀町廃寺跡, 崇福寺跡, 善法院庭園, 襖遺跡, 欲賀西遺跡, 宮山2号墳, 盛安寺庭園, 旧和中散本舗庭園, 小谷城跡, (京都府)三宅遺跡, スクモ遺跡, 大覚寺大沢池, 鹿苑寺庭園, 鳥居前古墳, 物集女車塚古墳, 私市円山古墳, 高麗寺跡, 温江遺跡, (大阪府)難波宮跡, 池上・曾根遺跡, 桜塚古墳群, 津堂城山古墳, 旧岡田家住宅, (兵庫県)日向遺跡, 住吉宮町遺跡, 鶴庄荘園遺跡, 赤穂城跡, 鬼神谷古窯遺跡, 上小名田遺跡, 小犬丸遺跡, 溝之口遺跡, 生栖遺跡, 桜ヶ丘銅鐸・銅戈, 南大塚古墳, 西大塚古墳, 大山荘園遺跡, 船宮古墳, 篠山城跡, 舞子東石ヶ谷遺跡, 中道子山城跡, 大開遺跡, 玉津田中遺跡, 但馬国府跡推定地, 奥藤島古墳群, 原田中遺跡, 大山城跡, (奈良県)宮滝遺跡, 藤ノ木古墳, 頭塔, (和歌山県)紀伊国分寺跡, 根来寺坊院跡, 川辺遺跡, (鳥取県)鳥取城跡, (鳥

根県)荒神谷遺跡, 白坏遺跡, 出雲玉作跡, 岩屋寺跡, タテチヨウ遺跡, (岡山県)美作国府跡, (広島県)三ツ城古墳, 草戸千軒町遺跡, (山口県)萩城跡, 朝田墳墓群, 大内氏遺跡, 梶栗浜遺跡, 土井遺跡, 長徳寺古墳, 延行条里遺跡, 綾羅木郷遺跡, 周防国府跡, (香川県)有岡古墳群, 讃岐国分寺跡, 紫雲山遺跡, 永井遺跡, 弘福寺領讃岐国山田郡田岡, (愛媛県)松山城跡, 来住廃寺跡, 古照遺跡, (高知県)土佐国府跡, (福岡県)鷹取城跡, 板付遺跡, 大野城跡, 鴻臚館跡, (佐賀県)名護屋城跡・陣跡, 大黒町遺跡, 吉野ヶ里遺跡, (長崎県)老岐国分寺跡, (熊本県)塚原古墳群, 網田焼窯跡, 江田船山古墳, (大分県)川部・高森古墳群, 弥勒寺跡, 大分元町石仏, (宮崎県)上蘭遺跡, 蓮ヶ池横穴群, 国衙・郡衙・古寺遺跡, (鹿児島)旧集成館遺構, 牟礼川遺物包含地, (沖縄県)仲原遺跡, 首里城跡, 黒石川窯跡, フルスト原遺跡, 今帰仁城跡, 糸数城跡

埋蔵文化財ニュース刊行

- 第63号 銅・青銅製遺物の保存処理
- 第64号 1986年度刊行埋蔵文化財発掘調査報告に関する情報調査
- 第65号 遺跡整備の基礎的調査
- 第66号 1987年度埋蔵文化財関係統計資料

5 その他

委員会等

第15回飛鳥資料館運営協議会

1988年4月22日 於 飛鳥資料館

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

1988年6月2日・3日 於 平城宮跡資料館講堂

研 修 員 一 覧 表

氏 名	所 属	受入れ期間	受入れ部局	研修指導内容
豊 岡 勇	三重県教委県外研修生 (上野市立久米小学校教諭)	1988.7.1~1988.8.31	飛鳥藤原宮跡発掘調査部	埋蔵文化財の発掘調査および保存
堀 田 隆 長	同上 (菰野町立菰野中学校教諭)	1988.7.21~1988.8.26	平城宮跡発掘調査部	同 上
ブ ラ ニ ー ・ フ ラ ナ シ	九州大学研究生	1988.8.3~1988.9.3	埋蔵文化財センター	同 上
江 尻 健	三重県教委県外研修生 (伊勢市立厚生中学校教諭)	1988.9.1~1988.9.30	平城宮跡発掘調査部	同 上
平 子 弘	同上 (三重県立四日市西郷高校教諭)	1988.10.1~1988.11.30	同 上	同 上
小 林 透	同上 (三重県立名張高校教諭)	1988.10.1~1988.10.31	飛鳥藤原宮跡発掘調査部	同 上
小 高 昌 久	同上 (松坂市立西部中学校教諭)	1988.11.1~1988.11.30	同 上	同 上
大 石 泉	助静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 研究員	1988.11.7~1988.11.30 1989.1.17~1989.2.18	埋蔵文化財センター	遺物保存処理
張 憲 徳	大韓民国文化公報部文化財管理局文 化財研究所美術工芸研究室技士	1989.2.1~1989.2.28	建造物研究室	古建築の調査・研究

外国出張

加藤 優 インドにおける古代・中世仏教寺院組織の研究のためインド国、パキスタン国及びネパール国へ出張

1988年12月15日～1989年2月10日

田中 琢 スミソニアン研究機構との研究計画の協議のためアメリカ合衆国へ出張

1989年1月19日～1989年1月28日

山中敏史 古代都市の構造と成立過程の研究のため、イタリア国及びギリシャ国へ出張

1989年3月26日～1989年5月25日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1988年度の状況は下記のとおりである。

区分	面積	金額
1988年度	12,289.54	339,507,127
国有地合計	321,223.10	6,276,021,435

Ⅱ 図書及び資料

図書 108,007冊 (1989.3.31)

区分	種別	購入	寄贈	計
1988年度	和漢書	1,321	4,492	5,813
	洋書	108	38	146
累計	和漢書	44,769	56,871	101,640
	洋書	5,368	999	6,367

写真 372,540点 (1988年度末)

Ⅲ 研究成果刊行物

1 1988年度刊行物

	名	称
学 報	第46冊	平城京右京八条十三・十四坪発掘調査報告
	第47冊	研究論集Ⅶ
史 料	第30冊	山内清男考古資料1
	第31冊	平城宮出土墨書土器集成Ⅱ
図 録	第19冊	古墳を科学する
	第20冊	聖徳太子の世界
報告書等	昭和63年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報	
	飛鳥・藤原宮発掘調査概報19	
	平城宮発掘調査出土木簡概報20	
	飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報9	

2 前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師連慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
	第11冊	院の御所と御堂—院家建築の研究—
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
1963	第14冊	唐招提寺蔵「レース」と「金亀舍利塔」に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
1965	第18冊	小堀遠州の作事
	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1967	第20冊	名物製の成立
1969	第21冊	研究論集Ⅰ
1971	第22冊	研究論集Ⅱ
1973	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
1976	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
1976	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
	第32冊	研究論集Ⅳ
1978	第33冊	イタリア中部の—山岳集落における民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅷ
1978	第35冊	研究論集Ⅴ
	第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ

1979	第37冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第38冊	研究論集Ⅵ
1980	第39冊	平城宮発掘調査報告Ⅹ
1981	第40冊	平城宮発掘調査報告Ⅺ
1984	第41冊	研究論集Ⅶ
	第42冊	平城宮発掘調査報告Ⅻ
	第43冊	日本における近世民家（農家）の系統的発展
1985	第44冊	平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告
1986	第45冊	薬師寺発掘調査報告

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集（複製）
1955	第2冊	西大寺叡尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡1 解説（別冊）
1970	第7冊	唐招提寺史料1
1974	第8冊	平城宮木簡2 図版・解説
	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊	藤原宮木簡1 図版・解説
	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊	東大寺文書目録第1巻
1979	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
	第17冊	平城宮木簡3 図版・解説
	第18冊	藤原宮木簡2 図版・解説
	第19冊	東大寺文書目録第2巻
1980	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
	第21冊	東大寺文書目録第3巻
1981	第22冊	七大寺巡礼私記
	第23冊	東大寺文書目録第4巻
1982	第24冊	東大寺文書目録第5巻
	第25冊	平城宮出土墨書土器集成Ⅰ
1983	第26冊	東大寺文書目録第6巻
1984	第27冊	木器集成図録—近畿古代編—
1985	第28冊	平城宮木簡4 図版・解説
	第29冊	興福寺典籍文書目録第1巻

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1975	第3冊	瓦編3
1976	第4冊	瓦編4
	第5冊	瓦編5
1978	第6冊	瓦編6
1979	第7冊	瓦編7
1980	第8冊	瓦編8
1983	第9冊	瓦編9

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇
1977	第3冊	日本古代の墓誌
1978	第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇
	第5冊	古代の誕生仏
1979	第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—
1980	第7冊	日本古代の鷗尾
1981	第8冊	山田寺展
1982	第9冊	高松塚拾年
1983	第10冊	渡来人の寺—桧隈寺と坂田寺—
	第11冊	飛鳥の水時計
	第12冊	小建築の世界—埴輪から瓦塔まで—
1984	第13冊	藤原宮—半世紀にわたる調査と研究—
1985	第14冊	日本と韓国の塑像
	第15冊	飛鳥寺
1986	第16冊	飛鳥の石造物
1987	第17冊	萬葉乃衣食住
	第18冊	壬申の乱

Ⅳ 定員

区分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
1988年度	1	23	3	63	90
1989年度	1	22	3	62	88

V 予 算 (1988年度)

人 件 費	560,682千円
運 営 費	813,930
事 業 管 理	8,301
一 般 会 計	55,482
特 別 研 究	9,100
発 掘 調 査	467,661
宮 跡 整 備 管 理	62,790
飛 鳥 資 料 館 運 営	46,767
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー 運 営	45,328
新 庁 舎 維 持 管 理 等 経 費	27,434
飛 鳥 藤 原 宮 跡 発 掘 調 査 部 施 設 新 営 に 伴 う 経 費	91,067
施 設 費	322,391
施 設 整 備 費	28,525
平 城 宮 跡 等 整 備 費	279,400
各 所 修 繕 費	14,466
計	1,697,003

VI 施 設

土 地

奈良国立文化財研究所所管	47,890m ²
本庁舎	8,860m ²
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	20,515m ²
飛鳥資料館	17,092m ²
郡山宿舎(二)	80m ²
飛鳥資料館宿舎	1,343m ²
文化庁所管(関係分)	1,404,861m ²
平城宮跡地区	1,078,597m ²
藤原宮跡地区	321,223m ²
飛鳥稲淵宮殿跡地区	5,041m ²

建 物

27,995m²

1. 庁 舎 27,404m²

区 分	本庁舎	平城	藤原	飛鳥資料館	藤原宮跡	計
	m ²					
事 務 室	568	122	197	90		977
研 究 ・ 整 理 室	1,419	1,368	1,149	77		4,013
資 料 ・ 図 書 室	1,021		383	36		1,440
会 議 室	338		129	42		509
講 堂		384	210	89		683
展 示 室		845	254	648		1,747
写 真 室	79	256	149	64		548
遺 構 展 示 棟		1,408				1,408

車 庫	84	528	352	94		1,058
倉庫・収蔵庫	123	4,772	2,041	480		7,416
研 修 棟	1,416					1,416
そ の 他	1,673	1,856	1,562	1,062	36	6,189
計	6,721	11,539	6,426	2,682	36	27,404

2. 宿舎等	591m ²
重要文化財旧米谷家住宅	213m ²
郡山宿舎(-, (二))	153m ²
飛鳥資料館宿舎	225m ²

主要工事

(1) 施設整備費	千円
飛鳥藤原宮調査資料施設旧庁舎解体	
その他工事	28,525
(2) 平城宮跡地等整備費	
平城宮跡環境整備昭和63年度第Ⅰ期工事	20,500
〃	第Ⅱ期工事 97,500
〃	第Ⅲ期工事 61,000
平城宮跡第1次朝堂院舗装工事	57,500
藤原宮跡環境整備昭和63年度工事	16,000
平城宮跡覆屋等スロープ床取設工事	6,750
(3) 官庁営繕費(昭和61~63年度)	
飛鳥藤原宮調査資料施設管理研究棟	
建築工事	1,042,167
〃	収蔵庫棟建築工事 328,350
〃	電気工事 233,450
〃	空調・衛生設備工事 238,650
(4) その他(各所修繕・試験研究費等)	
飛鳥資料館機械設備改修工事	5,250
第3収蔵庫管理部改修その他工事	8,140
収蔵庫内装その他工事(プレハブ3棟)	9,120
本庁舎吸気式冷温水ユニット設備改修工事	3,940

VII 人事移動 (1988.4.1~1989.3.31)

4月1日 庶務部会計課用度係用度主任に昇任	岡本 安司
飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室長に昇任	川越 俊一
埋蔵文化財センター教室室長に昇任	登り 惇哉
歴史研究室長に配置換	加藤 優
飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室に配置換	岩永 省三

飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室に
配置換 清水 真一
飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室に
配置換 橋本 義則
埋蔵文化財センター情報資料室に転入
今中 弘幸
事務補佐員（庶務部会計課）に採用
小坂由紀子
技能補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査
部）に採用 平山 重利
研究補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査
部）に採用 菅波 正人
研究補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査
部）に採用 善端 直
国立民族学博物館情報管理施設技術室
に転任 包国 征治
5月1日 辞職 築山 薫
5月16日 事務補佐員（庶務部会計課）に採用
細井 雅子
7月1日 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に
昇任 清水 真一
埋蔵文化財センター研究指導部主任研
究官に昇任 上原 真人
埋蔵文化財センター研究指導部主任研
究官に昇任 内田 昭人
文化庁文化財保護部美術工芸課文化財
調査官に転任 土肥 孝
辞職 高橋 公一
9月1日 辞職 菅波 正人
10月1日 研究補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査
部）に採用 神田 高士
研究補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査
部）に採用 河村裕一郎
辞職 納谷 守幸
12月1日 文部技官（平城宮跡発掘調査部考古第
一調査室）に採用 森本 晋
文部技官（平城宮跡発掘調査部史料調
査室）に採用 森 公章
1月1日 庶務部庶務課庶務係長に昇任 大梶 宏
大阪大学庶務部人事課給与掛長に転任
奥井 良治
辞職 高野 学
2月1日 辞職 善端 直
3月31日 辞職（定年退職） 八幡 扶桑

Ⅷ 組織規程

文部省組織令〈抜粋〉

昭和59年6月28日 政令第227号

第2章 文化庁 第3節 施設等機関 (施設等機関)

第108条 文化庁長官の所轄の下に、文化庁に国
立国語研究所を置く。

2 前項に定めるもののほか、文化庁に次の施設
等機関を置く。

(中略)
国立文化財研究所
(国立文化財研究所)

第114条 国立文化財研究所は、文化財に関する
調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関
とする。

2 国立文化財研究所には、支所を置くことがで
きる。

3 国立文化財研究所及びその支所の名称、位置
及び内部組織は、文部省令で定める。

文部省設置法施行規則〈抜粋〉

昭和28年1月13日 文部省令第2号

第5章 文化庁の施設等機関 第4節 国立文化財研究所 第1款 名称及び位置 (名称及び位置)

第116条の9 国立文化財研究所の名称及び位置
は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都台東区
奈良国立文化財研究所	奈良県奈良市

第2款 奈良国立文化財研究所
(所長)

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は、所務を掌理する。
(内部組織)

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、建
造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘
調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研
究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを
置く。

(庶務部の分課及び事務)

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

- 一 庶務課
 - 二 会計課
- 2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
 - 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
 - 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
 - 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。
 - 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 3 会計課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 予算に関する事務を処理すること。
 - 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
 - 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
 - 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。
 - 五 庁内の取締りに関すること。

第126条 削除

(建造物研究室等の事務)

第127条 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

2 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第6項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室に置いては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第5項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。

3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関連する調査研究及び事業を行う。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建

造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの内部組織)

第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

(教務室の事務)

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の六室及び事務)

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(他の室の所掌に属するものを除く)をつかさどる。

3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、

第133条第1号から第3号までに掲げる事務(発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除く)をつかさどる。

4 発掘技術研究室においては、遺跡の発掘技術に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

5 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

6 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

7 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

(情報資料室の事務)

第138条 情報資料室においては、第133条第4号に掲げる事務をつかさどる。

(客員研究員)

第139条 奈良国立文化財研究所に客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員は、所長の命を受け、奈良国立文化財研究所において行う調査研究に参画する。

3 客員研究員は、非常勤とする。

改正 昭和43年6月15日 文部省令第20号
昭和45年4月17日 文部省令第11号
昭和48年4月12日 文部省令第6号
昭和49年4月11日 文部省令第10号
昭和50年4月2日 文部省令第13号
昭和51年5月10日 文部省令第16号
昭和52年4月18日 文部省令第10号
昭和53年4月5日 文部省令第19号
昭和53年9月9日 文部省令第33号
昭和55年4月5日 文部省令第14号
昭和55年6月25日 文部省令第23号
昭和58年10月1日 文部省令第25号
昭和59年6月30日 文部省令第37号
昭和63年4月8日 文部省令第12号

職員 (1989年7月1日現在)

所属	氏名	官職	担当	
	鈴木 嘉吉	文部技官 所長	長	
庶務課	廣瀬 了平	文部事務官 部長	長	
	中川 良和	文部事務官 課長	長	
	石田 和樹	文部事務官 課長 補佐	長	
	西田 健三	文部事務官 専門職員	平城事務	
	大槻 宏	文部事務官 庶務係長	庶務人事	
	石田 義則	文部事務官	警務員 長	
	森田 光治	文部事務官 警務員	警務員 長	
	岡田 博元	文部事務官 警務員	警務員	
	穴戸 雅子	事務補佐員	庶務係	
	港 悦子	事務補佐員	庶務係	
	福本 良子	事務補佐員	庶務係	
	新宮 恵子	事務補佐員	庶務係	
	巽 月子	事務補佐員	庶務係	
	本中 宣代	事務補佐員	図書資料	
	中川 かよ子	事務補佐員	図書資料	
	中垣 睦美	事務補佐員	図書資料	
	西嶋 富美	事務補佐員	図書資料	
	石川 千恵子	研究補佐員	公	
	庶務課	小川 照夫	文部事務官 課長	長
		益田 朗	文部事務官 課長 補佐	長
川合 教博		文部事務官 課長 補佐	長	
渡辺 康史		文部技官 専門職員	整備管理	
井元 正澄		文部技官 専門職員	施設事務	
新井 耕治		文部事務官 専門係長	藤原事務	
新湯 淳史		文部事務官 専門係長	藤原事務	
岡本 安司		文部事務官 経理主任	経理主任	
橋元 敬子		事務補佐員	経理	
河村 京子		事務補佐員	経理	
植田 よし子		事務補佐員	経理	
小林 雅文		文部事務官 用度係長	用度係長	
松本 正典		文部事務官	用度係長	
飯田 信男		文部技官	自動車運転	
小坂 由紀子		事務補佐員	用度係長	
細井 雅子	事務補佐員	用度係長		
井元 正澄	文部技官 施設係長(兼任)	施設		
小園 秀彦	文部技官	施設		
大西 和子	事務補佐員	施設		
建造物研究室	宮本 長二郎	文部技官 室長	長	
	山岸 常人	文部技官 (併任)	長	
	浅川 滋男	文部技官 (併任)	長	
	鳥田 敏男	文部技官 (併任)	長	
	本中 真淡	文部技官 (併任)	長	
歴史研究室	鈴木 嘉吉	文部技官 室長(事務取扱)	長	
	玉田 芳英	文部技官 (併任)	長	
	寺崎 保広	文部技官 (併任)	長	
	岩永 省三	文部技官 (併任)	長	
	橋本 義則	文部技官 (併任)	長	
松井 章	文部技官 (併任)	長		

所属	氏名	官職	担当
平城	町田 章	文部技官 部長	長
	金子 裕之	文部技官 室長	長
	小池 伸彦	文部技官	長
	森本 晋	文部技官	長
	井上 和人	文部技官 (併任)	長
	田辺 征夫	文部技官 室長	長
	玉田 芳英	文部技官	長
	千田 剛道	文部技官 (併任)	長
	巽 淳一郎	文部技官 (併任)	長
	毛利 光俊彦	文部技官 室長	長
	佐川 正敏	文部技官	長
	小澤 毅	文部技官	長
	小林 謙一	文部技官 (併任)	長
	上野 邦一	文部技官 室長	長
	浅川 滋男	文部技官	長
	鳥田 敏男	文部技官	長
	松本 修自	文部技官 (併任)	長
	高瀬 要一	文部技官 室長	長
	小野 真健吉	文部技官	長
	村岡 正	文部技官 調査員 (非常勤)	長
掘	綾村 宏広	文部技官 室長	長
	寺崎 保広	文部技官	長
	村上 公章	文部技官	長
	森公 章	文部技官	長
	渡邊 宏宏	文部技官	長
	細見 啓三	文部技官 主任 研究官	長
	千田 剛道	文部技官 主任 研究官	長
	巽 淳一郎	文部技官 主任 研究官	長
	小林 謙一	文部技官 主任 研究官	長
	松本 修自	文部技官 主任 研究官	長
飛鳥	井上 和人	文部技官 主任 研究官	長
	西田 健三	文部事務官 事務総括(併任)	長
	森田 光治	文部事務官 (兼任)	長
	岡田 博元	文部事務官 (兼任)	長
	佃 幹雄	文部技官 専門職員	長
	井上 直夫	文部技官	長
	吉村 司朗	技能補佐員	長
	牛川 喜幸	文部技官 部長	長
	黒崎 直	文部技官 室長	長
	深澤 芳樹	文部技官	長
宮跡発掘調査部	花谷 浩	文部技官	長
	井上 直夫	文部技官 (併任)	長
	木下 正史	文部技官 室長	長
	岩永 省三	文部技官	長
	大脇 潔	文部技官 (併任)	長
	西口 寿生	文部技官 (併任)	長

所属	氏名	官職	担当
飛鳥	山本忠尚 山岸常人	文部技官室 長	古築
		文部技官 (併任)	
藤原	川越俊一 橋本義則 安田龍太郎 立木修	文部技官室 長	古史
		文部技官 (併任)	
		文部技官 (併任)	
宮跡発掘調査部	安田龍太郎 大脇壽生 山口常人 立木修 新井耕治 大西洋子 稲垣重利 平山重利 宮川伴子 神田高士 河村裕一郎 南時夫 西川寿勝	文部技官主任 研究官	古古古築古務
		文部技官主任 研究官	
飛鳥	鈴木嘉吉	文部技官館長(事務取扱)	務守備務
資	柿本治 中西建夫 乾春雄 藤本清 福井敏子	文部事務官室 長	事務守備務
		文部事務官	
		技能補佐員	
		警務補佐員	
料	猪熊兼勝 杉山洋 大谷照子	文部技官室 長	古古古務古古
		文部技官	
		事務補佐員	
館	藤沢一夫 岩本圭輔	調査員 (非常勤)	古古古古古古
		文部技官主任 研究官	

所属	氏名	官職	担当
埋蔵文化財部	田中 琢	文部技官 センター長	事務
教務室	登り新井 仲一岩永	文部事務官室 長	事務
		文部事務官 事務補佐員	
研究指導部	佐原 真	文部技官部 長	古古
研究指導部	松沢 聖生 山中敏史	文部技官室 長	古古
		文部技官 (併任)	
研究指導部	工楽 善通 上原真人	文部技官室 長	古古
		文部技官 (併任)	
研究指導部	西村 康章 松井	文部技官室 長	古古
		文部技官	
研究指導部	沢田 正昭 肥塚 隆保	文部技官室 長	保存科学 保存科学
		文部技官 (併任)	
研究指導部	木全 敬蔵 伊東太作	文部技官室 長	測量 測量
		文部技官 (併任)	
研究指導部	光谷 拓実 松井 章	文部技官 (併任)	遺跡庭園 古古
		文部技官 (併任)	
研究指導部	田中 哲雄 内田 昭人	文部技官室 長	遺跡庭園 建築
		文部技官 (併任)	
研究指導部	伊東 太作 山中敏史	文部技官主任 研究官	測量 古古
		文部技官主任 研究官	
研究指導部	光谷 拓実 肥塚 隆保	文部技官主任 研究官	遺跡庭園 保存科学
		文部技官主任 研究官	
研究指導部	上原 真人 内田 昭人	文部技官主任 研究官	古築 建築
		文部技官主任 研究官	
研究指導部	杉田 繁治 泉 拓良	調査員 (非常勤)	埋文情報 埋文情報
		調査員 (非常勤)	
研究指導部	岩本 次郎 今中 弘幸	文部技官室 長	歴史 埋文情報
		文部技官	

